

## 北海道医療大学先端研究推進センター当事者研究分野

### 2022年度 韓国障害友権益問題研究所精神障害者社会統合研究センター（RIDRIK）との国際共同調査及び北東アジア精神障害者人権推進国際会議（開催地：モンゴル）の開催報告書

#### 1. 目的と背景

##### 1) 背景

北海道医療大学先端研究推進センター当事者研究分野は、2021年11月に韓国障害友権益問題研究所精神障害者社会統合研究センター（Research Institute of Differently Abled Person's Right in Korea：以下RIDRIK）と精神障害者の人権擁護また医療や薬物のみならず地域で安心して暮らすための「代替プログラム」をテーマに国際会議を実施した。日本からは精神障害者に対する代案モデルの実践として当事者研究を紹介した。この会議は、将来の目標としてアジア地域の精神障害者に対する人権擁護や代替プログラムを普及させることを掲げた。

この度RIDRIKは、KCOC（国際開発協力民間協議会）の助成をはじめて受け、韓国と地理的、文化的に隣接している北東アジアの国として最初の開発協力のモンゴルを対象国とした。そこには様々な理由があるが、その一つにはモンゴルは障害分野ではアジア太平洋障害者フォーラム（APDF）のメンバーであり、仁川戦略と呼ばれる南北10年行動計画の当事者である。したがって、アジア太平洋地域の障害者の人権を促進するための協力の可能性が高いと見込んだことがある。

##### 2) 事業の目的

RIDRIKが長期的に目標としているのは、モンゴル地域内のケアファーム構築（農福連携事業）を通じた精神障害者の人権増進及び雇用創出であり、これはモンゴル長期開発政策中期開発戦略SDGs、国連障害者権利条約に準拠する。

今回はその目標が実施可能かを知るためのニーズ調査であり、我々日本の調査チームは、当事者・家族、支援者へのインタビューを分担し、モンゴルの関係者や一般市民を対象とした国際会議においては日本の精神保健医療福祉分野に関する政策、制度、実践についての報告を行った。

RIDRIKは、本学先端研究推進センターで取り組む当事者研究、浦河べてるの家の実践がアジアの精神保健福祉の向上において、モデル的な実践であると考えており、今回の協力依頼の背景には、これまでの本学と韓国カトリック大学のMOU締結がある。\*1

#### 2. 2022年6月28日から7月4日までの視察・調査の内容

##### 1) 調査の日程と内容

以下の日程で視察と調査を実施した。調査にあたっては、訪問調査、個人及びグループでのインタビュー、アンケート調査を実施した。

日時	視察・調査・事業の内容
6月27日	モンゴル、ウランバートル到着
6月28日	AM：韓国調査チームとの打ち合わせ 国立人権センター訪問、インタビュー調査 PM：ウランバートル国際大学訪問：社会福祉学部教員と交流
6月29日	AM：モンゴル国立精神医療センター、ゲルセンター 訪問 PM：障害者開発庁訪問 JICA チーフアドバイザー千葉寿夫氏へのヒアリングと交流
6月30日	AM：当事者インタビュー（1件） PM：チンゲルティ地区第18区（ホロー）職員インタビュー 農業実践者（障害者雇用）家族訪問によるヒアリング
7月1日	PM：チンゲルティ地区第18区（ホロー）ファミリークリニック ソーシャルワーカー民生委員へのグループインタビュー 当事者インタビュー（1件）
7月4日	国際会議
7月5日	国際会議
7月6日	帰国



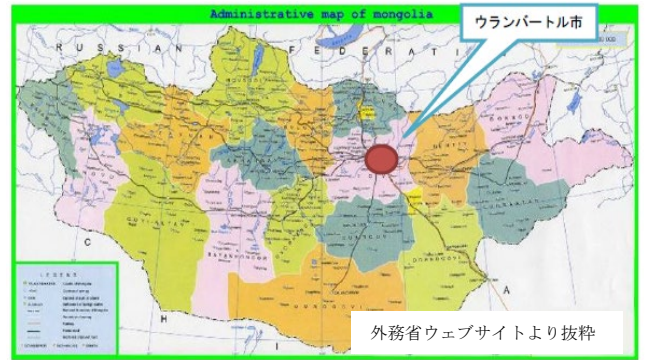
RIDRIK調査団、国立人権センターのスタッフ



ゲルセンター（モンゴル国立精神医療センター内）の様子

## 2) 社会的な背景

モンゴル国は人口340万9,939人でそのうち首都ウランバートルに約163万人が伝統的なゲル（遊牧民族特有のテント）と西洋的な住宅（高層マンション、一戸建て）に住んでいる。国土面積は156万4,100平方キロメートルで日本の約4倍あり<sup>2)</sup>、北はロシア、南は中国に囲まれ、国の法制度はロシアの影響を受け、アジアではじめての社会主義であったが、1992年に制定されたモンゴル国憲法のもと、現在は共和制国家であり「基本的人権と自由が保障される」（モンゴル国憲法第16条）民主主義国家である。<sup>3)</sup>

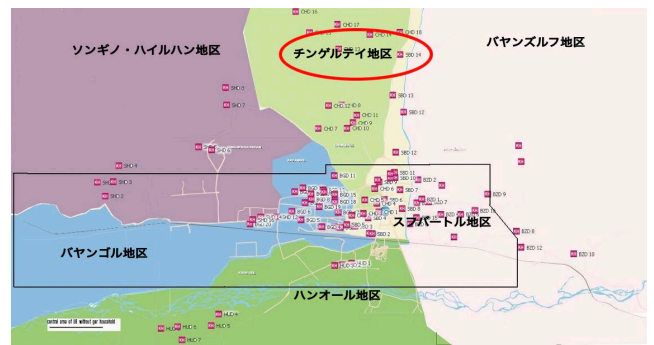


2006年に国連で障害者権利条約が確定され、その後、モンゴルもそれを批准し障害者の権利が確定され、今回訪問をした国立人権センターが障害者の人権推進に重要な役割を担ってきた。人権センターのナラトヤ氏は「障害者の中でも一番見捨てられているのが精神障害者の分野である」と私たちのヒアリングの際に述べていた。現時点では精神障害者のための団体は存在せず、医療としてはモンゴル国立精神医療センターが専門的な医療を提供しており、唯一の入院施設であり、精神障害者のケアは当事者家族に任されている状況である。今回我々はウランバートル中心街から北の方にあるチンゲルティ地区にあるファミリークリニックで出会ったソーシャルワーカーとその地域に住む当事者にインタビューを実施した。

## 3. 調査の結果

### 1) 明らかになった精神保健福祉の課題

古くからの精神保健の課題としてはアルコール依存症の問題があり、背景として1990年代に、モンゴル国を社会的・経済的に支援していたソビエト連邦が崩壊することによって、社会主義から資本主義体制へと移行したモンゴルは、公的なサービスの削減と極度の貧困により人々は追い詰められていった。伝統的な遊牧民としてのゲルでの生活を離れ、ウランバートル周辺に定住（ゲル）する中で、家庭内暴力、児童虐待（その当時はホームレスの子供たちを「マンホールチルドレン」と呼んでいた）が社会問題となり、今回の国立人権センターでのヒアリングや当事者のインタビューでも家庭内暴力や虐待問題が明らかになった。



外務省ウェブサイトより抜粋、一部著者により改変

### 2) 精神障害者の生活実態

訪問調査をすすめるにあたっての事前情報では、さまざまな政府統計や学術的なデータなどに精神障害に対する言及やデータがなく、精神障害と知的障害が同一に扱われるなど、現状の一端が明らかになっていたが、現地での訪問調査によっても、統合失調症や双極性障害などのわが国において主要な精神疾患が、統計上もなく、白書などに記載されているのは<sup>4)</sup>、神経症領域の疾患、てんかん、うつなどであり、それを裏付ける結果となった。訪問調査や国際カンファレンスの場でも出会った当事者や家族の証言から統合失調症と思われる人たちの存在が明らかになったが、カミングアウトをすること自体が、困難であることが推測された。

また、精神障害者のための雇用が全くなく、ほとんど家に孤立して暮らしているにもかかわらず、モンゴル国で唯一の国立精神健康センター（病床数470床）でも、受け入れられていない現状で、当事者が、週に時間を過ごすことができる場所と支援のプログラムが必要である。

### 3) プロジェクトを進めるにあたって

この度の調査の目的の中に、「モンゴル地域内のケアファーム構築（農福連携事業）を通じた精神障害者の人権増進及び雇用創出」があるが、現状では、「精神障害者」の概念が一般市民に馴染みが薄い事、国としても制度政策の課題としての捉え方が十分ではないことが明らかになり、それを実現するためにも、日本と韓国の経験からも、当事者・家族のニーズの把握と顕在化、さらには、まずは当事者・家族がつながり、現状を共有する自助活動の創出の重要性が確認された。



チンゲルティ地区の様子

#### 4. 北東アジア精神障害者の人権構造と当事者運動拡散のための国際カンファレンスの開催報告

1) 開催日時 2022年7月4日・5日

2) 開催場所 PLAYground Online Event hall (ウランバートル市)

3) 内 容

シンポジスト

韓国清州精神保健センター所長 金大煥氏

韓国カトリック大学社会科学部教授 李教授

北海道医療大学 向谷地生良・奥田かおり

佐久大学 佐藤園美

北星学園大学 望月和代

浦河べてるの家 伊藤知之 (当事者 オンライン)

韓国当事者代表2名 他

出席者 120名 (二日間)

日韓蒙における精神保健福祉の人権をめぐる歴史、政策、精神医療及び地域生活支援と当事者活動の歩みと現状について報告と意見交換を行った。参加者の内訳は、学識経験者、関係機関、家族、当事者が集まり、特に家族から統合失調症などを持つ人の現状の困難性と連帯の重要性についての発言があり、問題意識の高さを感じ、今後の取り組みに希望を感じた。

以上の他、現地の大学（ウランバートル国際大学、モンゴル国立医科大学など）の研究者、さらには現地で活動するJICAのスタッフ等とも交流を図ることができ、今後のプロジェクトの推進に不可欠な人的なネットワークをつくることが出来たことは、大きな収穫であった。



当事者インタビューを実施したチンゲルティ地区の街並み



カンファレンスの様子



ウランバートル市内の集落

## 注釈

- \*1 2018年に韓国カトリック大学社会福祉学部と本学看護福祉学部間でMOUを締結。2021年12月、RIDRIKより本学先端研究推進センターとのMOU締結の要請があり、現在（2022年8月）締結に向けて準備中。

## 参考文献

- 1) 外務省 モンゴル国基礎データ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/data.html> 9.6.2  
ダウンロード
- 2) 窪田新一 編著 (2022) モンゴルはどこへ行く. 論創社
- 3) モンゴル国 労働・社会保障省 JICA国際協力機構 (2020) 2020年版 モンゴル国 障害者白書